

成人用肺炎球菌予防接種を受ける方へ

● 肺炎球菌感染症とは

肺炎球菌感染症は、肺炎球菌という細菌によって引き起こされる病気です。この菌は、主に気道の分泌物に含まれ、唾液などを通じて飛沫感染します。日本人の約 3～5%の高齢者では鼻や喉の奥に菌が常在しているとされます。これらの菌が何らかのきっかけで進展することで、気管支炎、肺炎、敗血症などの重い合併症を起こすことがあります。

● 成人用肺炎球菌予防接種の有効性

肺炎球菌には 93 種類の血清型があり、平成 26 年 10 月からの定期接種で使用される「ニューモバックス NP (23 価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチン)」は、そのうちの 23 種類の血清型に効果があります。また、この 23 種類の血清型は成人の重症の肺炎球菌感染症の原因の約 7 割を占めるという研究結果があります。

● 成人用肺炎球菌予防接種の副反応

稀に報告される重い副反応としては、アナフィラキシー様反応（呼吸困難、血管浮腫、蕁麻疹、発汗等があらわれることがある。）、血小板減少（小康期にある特発性血小板減少性紫斑病患者において血小板減少がある。）、ギランバレー症候群、蜂巣炎様反応等が報告されています。その他、以下のような副反応の報告があります。

報告頻度	5%以上	1～5%	1%未満	頻度不明
全身症状		倦怠感、違和感、悪寒、発熱	ほてり	無力症
筋・骨格系		筋肉痛		関節痛、関節炎 CK(CPK)上昇
注射部位	疼痛、熱感、腫脹、発赤	硬結	掻痒感	可動性の低下
精神神経系		頭痛		感覚異常、熱性痙攣
呼吸器			咽頭炎、鼻炎	
消化器			悪心	嘔吐
血液				リンパ節症・リンパ節炎、白血球数増加
皮膚			皮疹	蕁麻疹、多形紅斑
その他		ALT(GPT)上昇	腋窩痛	血清病、CRP 上昇

● 予防接種対象者など

予防接種対象者は、平成 30 年度までは、各年度に、65 歳、70 歳、75 歳、80 歳、85 歳、90 歳、95 歳、100 歳になる人及び 60 歳以上 65 歳未満の心臓や腎臓、呼吸器に重い障害のある方（身体障害者手帳 1 級程度）です。ご本人が接種を希望される場合にのみ予防接種を行います。意思確認ができなかった場合は、予防接種法に基づく接種はできません。

定期予防接種の対象となるのは、1 回目に限る。過去に 1 度でも成人用肺炎球菌予防接種（23 価肺炎球菌莢膜ポリサッカライド）を受けた者は、対象となりません。

予 防 接 種 を 受 け る 前 に



● 一般的注意

- * 成人用肺炎球菌予防接種について、この用紙をよく読んで、必要性や副反応についてよく理解しましょう。
- * 気にかかる事やわからない事があれば、予防接種を受ける前に担当の医師や看護師、または市の担当者などに質問しましょう。
- * 説明を受け、十分に納得したうえで、予防接種を受けましょう。

● 予防接種を受けることができない人

- 1 明らかに発熱のある人（体温が37.5度以上の場合はできません）
- 2 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- 3 このワクチンに含まれる成分によってアナフィラキシーを呈したことがあることが明らかな人
アナフィラキシーショックとは、通常接種後30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。発汗、顔が急にはれる、全身にじんましんが出る、吐き気、嘔吐、声が出にくい、息苦しいなどの症状に続き、
血圧が下がっていく激しい全身反応です
- 4 その他、医師が不適当な状態と判断した場合

● 予防接種を受けるときに担当医とよく相談しなければならない人

- 1 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害等の基礎疾患を有する人
- 2 予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた者及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を呈したことがある人
- 3 過去に痙攣の既往のある人
- 4 過去に免疫不全の診断がなされている者及び近親者に先天性免疫不全症の者がいる人
- 5 このワクチンに含まれる成分に対してアレルギーを呈するおそれのある人
- 6 過去に、多価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチンを接種されたことのある人

● 予防接種を受けた後の一般的注意事項

- 1 接種後24時間は副反応の出現に注意しましょう。特に30分以内は健康状態が急激に変化することがありますので、医師（医療機関）とすぐに連絡のとれるようにしておきましょう。
- 2 接種当日の入浴は、差し支えありませんが、過激な運動や飲酒は、接種後24時間以内はさけましょう。

* 接種後に気分不良などで医師の診察を受けた場合には、ご連絡ください。

《 田川市 保健センター 電話 44-8270 》